

2 人と支え合って

(5) 認め合う学び合う心を

P.72~81

2-(5)

それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつたことを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。

1 この内容項目のページの特徴

人間が物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。

七十三ページでは、自分と異なるものの見方や考え方と出会った経験を振り返ることができる。また、七十五ページには異なる意見を尊重することと自己の内面的成長との関わりを考えることができる書き込み欄がある。

七十六ページの「人物探訪」では、心の広さ奥深さがあるからこそ誰からも学ぼうとする姿勢をもつことができるということについて考えることができる。

2 活用のポイント

中学生の時期には、自分の考えや立場に固執する傾向が強くなり、他者と意見の対立や摩擦が生じることも少なくない。個性についての自覚も芽生え、人それぞれにもの見方や考え方に違いがあることを理解するようになる。そのために各ページを通して、自分自身を振り返らせ、自分の視点からだけでなく、様々な意見も取り入れ、認め合い学び合う心を育みたい。

指導に当たっては、個性とは何かについての理解を促すとともに、多様な個性を認め、それぞれの差異を尊重

する態度を育てることが大切である。

3 活用場面例

道徳の時間

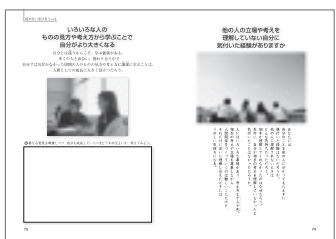
人それぞれに異なるものの見方や考え方があつたことを実感し、認め合い学び合う心の大切さを確認できるように、七十五ページの書き込み欄などを活用する。

事例

- ① 七十三ページの書き込み欄に記入する。
- ② 読み物資料「言葉の向こうに」を読んで話し合う。
- ③ 七十六ページの「人物探訪」を読み、山岡鉄舟の「己の知らざることは何人にもならうべし」の言葉に込められた思いについて話し合う。
- ④ 七十五ページの書き込み欄に、異なる意見を尊重しつつ、自分も成長していくにはどうすればよいか、自分の考えを記入して話し合う。

国語科

七十六ページの「人物探訪」や七十七ページの「この人のひと言」の



P.74~75

言葉を読んで、これまで読んだ本の中から、自分のもの見方や考え方を広げてくれた言葉などについて七十七ページに記入して、意見を交流する。こうした活動により、読書への興味・関心が喚起されるとともに、生き方についての考えを広げ、深めることにもつながる。

また、『論語』を教材とした学習をする際に、孔子の「君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。」という言葉を活用し、自身の体験を振り返らせながら、生きる教訓を短文にまとめさせる。それにより、題材と自己とをつなぐとともに、学習意欲を高め、言語感覚を豊かにすることもできる。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 適応と成長及び健康安全」の「イ 自己及び他者の個性の理解と尊重」の指導に当たって七十三・七十四ページについて話し合い、他者の個性を理解し、互いに尊重し合い、自己理解を一層深め、豊かな人間関係を育んでいくような態度を養う際に活用する。

◆この人のひと言

「君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。」

孔子は、古代中国の思想家で、儒教の祖として尊敬され、日本の文化にも古くから影響を与えた。この言葉は、『論語』の中にある。

この言葉を通して、他者と単に同調するのではなく、自分の考えをもって調和することが、人との関わりを深めていくということについて考えさせるようにしたい。そして、自分自身のことを振り返って、この言葉に込められた思いを深く考えさせ、望ましい人間関係の育成につなげていくようにしたい。

◆人物探訪〈山岡鉄舟〉
「己の知らざることは何人にもならうべし」

山岡鉄舟のエピソードから、個性の尊重や寛容の心をもち謙虚に学ぶことを具体的に考えさせるようにしたい。

鉄舟が十五歳のときに自らを律するために作ったルールを、同じ年代の生徒たちはどう感じるであろうか。

十五歳のときに作った自己を律したルールを守り続けた鉄舟の生き方は、その後、関わりがあった多くの人々の生き方にも影響を与えていることも押さえておきたい。



P.76

1 資料の特性

インターネットという通信手段は、電子メールやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、友人や仲間、同じ趣味や関心をもった人々との多様な方法での交流を可能にする。中学生になると、コンピュータ等を使用する機会も増え、インターネットを介した情報の収集や発信の経験をもつ生徒も多くなる。そのため、インターネットの魅力を体験する一方で、様々なトラブルに遭遇する可能性も高くなる。

主人公の加奈子は、インターネットで、ヨーロッパのサッカーチームのA選手のファン仲間との交流を楽しんでいる。ある試合をきっかけに、心ない書き込みが続いたことに怒った加奈子は、自分もひどい言葉で応酬し注意されてしまう。インターネット上の言葉のやり取りの難しさに直面した加奈子だったが、「言葉の向いこにいる人々の顔を思い浮かべてみて。」という言葉から、言葉の受け手の存在を忘れてしまっていた自分に気付くという資料である。

2 指導上の留意点

加奈子が置かれた状況は、インターネットを利用していれば誰もが想起することができるだろう。ここでは、情報モラルに留意しながら、インターネット上の書き込

③画面から目を離して椅子の背にもたれた加奈子は、どのようなことを考えていたのだろうか。

- ・多くの人がサイトを見ていたことを忘れていた。読む人の気持ちを全く考えていなかった。
- ・直接会って話している時よりもネット上のコミュニケーションシオンって難しい。言葉じりにこだわって、ゆとりをもって受け止められない。
- ・自分の言いたいことばかりになって相手のことをじっくり考えられない。

④異なるものの見方や考え方を受け止めながら、他の人とコミュニケーションを図っていくためには、どのようなことが大切だと思うか。

事例②

いろいろなもの見方や考え方があることについて考える展開

【主な学習】

- ①加奈子は、「あなたが書いた言葉の向いこにいる人々の顔を思い浮かべてみて。」と言われて、どのようなことを考えただろうか。
- ・サイト上の字面だけにとらわれていたが、匿名だからこそ、ネット上での言葉のやり取りには難しさや恐ろしさがある。
 - ・自分の発する言葉の向いこに、それを受け取る相手の存在があることを忘れてはいけない。
 - ・全く同じ顔の人がいないように、いろいろなもの見方や考え方があって、当たり前だ。
- ②加奈子が発見した「すごいこと」とは何だろうか。
- ・コミュニケーションとは、単に言葉を交わし合うこ

みによる心のすれ違いに着目し、考えを深められるように指導していきたい。

具体的には、自分の発する言葉の向いこにそれを受け取る他者がいることを想像させることで、ネット社会におけるよりよいコミュニケーションの在り方について考えさせるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

それぞれの立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする態度を育てる。

事例①

加奈子の思いを通して、他の人の考え方を尊重することについて考える展開

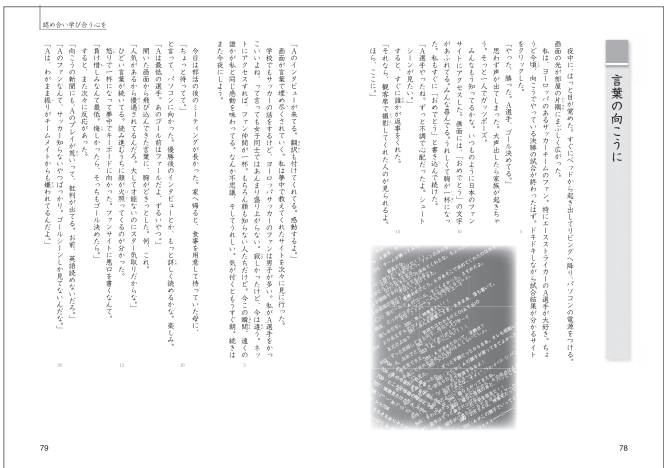
【主な学習】

- ①必死で反論する加奈子の言葉が段々エスカレートするのはなぜだろうか。
- ・ファンとしてA選手の悪口を言われればなしにできないから。
 - ・相手が見えないので反論も書きやすいから。
- ②「中傷する人たちと同じレベルで争わないで。」という書き込みを見て、加奈子はどのようなことを思ったのだろうか。
- ・悪いのは悪口を書いてくる方だ。
 - ・大好きな選手の悪口は許せない。
 - ・私は悪くない。同じファン仲間だと思っていたのにひどい。

とだけではない。言葉の奥にある思いや気持ちを交わし合うことだ。

- ・やりとりしている言葉は、人の全部ではなくて、一部だと考えれば冷静になれるのだと思う。
- ・大事なものは、字面にとらわれることなく、言葉の奥にある人の気持ちを考え、いろいろな考え方を認めた上でコミュニケーションを図ることだ。

③この学習を通して、感じたことや考えたことは、どのようなことか。



P.78~79

2 人と支え合って
(6) 人々の善意や支えに応えたい

P.82~93

2-(6)

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。

1 この内容項目のページの特徴

感謝の心は、他の人が自分のことを大切に思ってくれていることに触れ、相手の行為を有り難いと感じたときに起こる人間の自然な感情である。他者からの善意や支えに付き、これを受け止めて感謝する豊かな心の働きが人間関係を築く上で大切である。

中学生の時期は、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人々の善意や支えに気付く一方で、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさも感じていることがある。

そこで、八十三ページでは、なぜ感謝の気持ちをうまく表現できないことがあるのかを考えるようになっていく。

感謝の意味を考える書き込み欄や読み物資料とともに、八十四ページの詩などによって、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさや大切さを考える構成となっている。

2 活用のポイント

指導に当たっては、まず、多くの人々の善意や支えによって、日々の生活が成り立ち、現在の自分があることに気付かせるようにする。その上で、その善意や支えに対する感動や喜びが自ずと感謝の心となって表出されるものであるということについて、経験振り返りを通じて理解を深めさせていくことが大切である。そして、自分の心

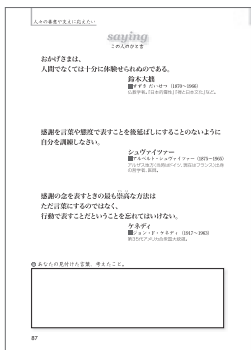
の中にある感謝の気持ちを素直に表現し、それが相手の心に届くことによって潤いのある人間関係が築かれるものであるということを考えさせていくようにしたい。

3 活用場面例
道徳の時間

読み物資料での話合いの前後に、「この人のひと言」を活用し、相手に感謝の心を届けることの大切さについて考えることができる。

事例

- ① 八十七ページの「この人のひと言」を読み、自分が関心をもった言葉を選び、理由を添えて発表する。
- ② 読み物資料「帰郷」を読んで話し合う。
- ③ 八十六ページの「メッセージ」を読んで、感じたことや考えたことを話し合う。
- ④ 自分が伝えたい「ありがとう」について八十五ページの書き込み欄に記入する。



P.87

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 適応と成長及び健康安全」の「才望ましい人間関係の確立」に関わって、八十四ページの「伝えられなかった『ありがとう』が迷子になっていませんか。」をテーマにして話し合う。

事例

- ① 八十五ページを活用して、伝えられてうれしかった「ありがとう」と、伝えたい「ありがとう」について考える。
- ② 八十四ページの詩を読んで、自分の体験を基に、伝えられなかった「ありがとう」について話し合う。
- ③ なぜ感謝の気持ちをうまく表現できないことがあるのかについて話し合う。
- ④ 自分が伝えたいと思う感謝の気持ちについて考える。
- ⑤ その感謝の気持ちをどのようにして伝えるのかを、自分なりの方法を考え、実践するようにする。



P.84~85

◆メッセージ（振分精彦（元小結高見盛））

「不器用な自分を支えてくれた

全ての人に感謝したい。」

自分が不器用な人間であると自覚している振分親方は、最後の一番の後、支度部屋で、ようやくたくさんの人の支えに気付く。
親方が現役力士を引退する断髪式で、次のようなエピソードが残されている。大銀杏にはさみを入れた先代の東関親方（元関脇高見山）に対して高見盛（現振分親方）は、「親方、力士で生きる甲斐を与えてくださりありがとうございました」と角界にスカウトしてくれた師匠につぶやいたという。不器用な振分親方としては、この機会を逃せば伝えられない感謝の思いだったのだろう。

◆この人のひと言

「感謝を言葉や態度で表すことを

後延ばしにすることのないように

自分を訓練しなさい。」

アルベルト・シュヴァイツァーは、世の中に善事をなす力や明るさが増えるように、「自分自身は、水の流れ出る道を見つけて泉となり、人々が感謝への渇きを癒すことができるようにしなければいけない。」という言葉を残している。

1 資料の特性

本資料は、主人公の研一が故郷へ帰り、故郷の人々の温かさに触れ、感謝の気持ちを感じるという内容である。東京で俳優となった研一は、脳卒中で母親が倒れたという連絡を受け、故郷の病院へと急ぐ。夜遅く病室に着くと、子供の頃から世話になった老夫婦が母親を見守っており、母親の無事を告げられる。翌日、研一は、老夫婦や母親が開いていた居酒屋の常連客の温かさに触れる。研一は、リハビリが必要な母親に東京で暮らそうと言うが、母親は首を横に振る。そんな様子を見ていた老夫婦が、母親の面倒を見ると切り出す。

「離れたくない」と母が言う町のぬくもりに触れ、研一は人々の温かさを感じながら東京に戻るという内容である。研一が感じた故郷のぬくもりや人の温かさについて考えることによって、多くの人の善意や支えにより、現在の自分があることに気付くことができる資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は自立心が強まり、時に、自己を過信し、自分の力だけで生きていると錯覚することもある。

本資料の主人公の研一が帰郷を通じて気付いたことは、母親への感謝だけではなく、母親を支えている老夫婦や町の人々の優しさなども含めたぬくもりであり、人は支

の優しさを有り難く感じる。

・ 自分一人で俳優になったと思っていたが、母や町の人たちみんなに支えられていたからこそ今の自分があるのだ。

④ この学習を通して、感じたことや考えたことは、どのようなことか。

事例②

研一が感じたぬくもりや優しさの元になっているものについて考える展開

【主な学習】

① 研一は、母が町の人たちとどのようなつながりをつくって暮らしてきたと思ったのだろうか。

・ みんなに優しく接し、思いやりのある態度で過ごしてきた。

・ 気取らず自慢しない人で、みんなに愛されている。母に普段、世話になっていたので、こんなときこそ役に立ちたいと、みんな思ってくれている。

② 研一が感じた「ぬくもり」とは、どのようなものだろうか。

・ 母を包んでいる町のみんなの思いやりや親切、愛情。ふるさとの人たちに支えられているという安心感。

③ 研一が帰郷によって感じたことや考えたことは、どのようなことか。

・ 自分は一人で生きていると思っていたが、様々な人の善意や支えによって生きている。
・ 人の支えや善意に対して感謝し、その思いに応えていきたい。

え合いながら生きているということだった。このときの研一の気付きや東京に帰る研一の心の変化についても考えさせ、自分も多くの人の善意や支えによって、日々の生活を送っていることを感じ取らせるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに気付き、それに感謝し、応えようとする態度を育てる。

事例①

研一の思いを通して、感謝について考える展開

【主な学習】

① 故郷に向かう電車の中で、研一は、どのようなことを考えていたのだろうか。

・ 母の病状はどうなんだろう。心配だ。普段からもつと連絡をとってあげればよかった。

・ 大変な状況だったら、自分の仕事にも影響してしまっただろうな。

② 老夫婦が病室に持ってきてくれたチャーハンを押し頂くように受け取った研一の胸には、どのような思いが込み上げてきたのだろうか。

・ 母だけでなく自分のことまで気遣ってくれて有り難い。大人になった自分に対して、子供の頃と同じようにしてくれることへの驚きと感謝の気持ち。

③ 来た道を引き返す電車の中で、研一は、どのようなことを思っていたのだろうか。

・ これまで自分のことしか考えていなかった。
・ おじさん、おばさんへの感謝の思い。常連客や雅也

二の視点 重点ページ

支え合い共に生きる

1 このページの特徴

二の視点に関わる重点化「人間関係を築く力」に関するページである。

茨木のり子は、多くの詩人を輩出した同人誌「権」を発刊し、叙情詩を多数創作した。「知命」は、人間同士の心の交わりの世界を描いた作品である。

2 活用事例

道徳の時間

人は、相互依存の間柄にあって生きている存在でもある。このページを活用して、人間関係を豊かにすることに考えてみるようにしたい。特に、最後の行の「さりげなさで」の言葉に着目し、「沢山のやさしい手」とは何かなどについて、話し合うことができる。



生命いのちを考える

P.98~101

1 ページの特徴

三の視点に関わる重点化「自他の生命の尊重」に関するページである。本ページは、生命を「偶然性」「有限性」「連続性」の観点から捉え、生徒たちに生命のかけがえのなさを語り掛けている。自らの生命を愛しみ、他者の生命を尊び、あるいは生き物の死に涙する。生命を尊ぶという人としての感情を、ここでしっかりと胸に刻み直したい。生命の偶然性には、神秘的な面がある。生徒にとっては自己の存在そのものについての意味を考えるきっかけにもなり、哲学的な思索へと誘うかもしれない。有限性は、最も一般的な考え方であるが、身近な生死との関連の中で、その重さを認識していくであろう。連続性は、主に、家族との結び付きを再認識させ、同時に、自分も、脈々と続くであろう生命の環の一つであることに気付かせる。

日常生活の中では、生命の誕生に遭遇したり、身近な人との死別を経験したりすることがある。あるいは、書物やテレビドラマの中のそうした場面を見て、感動したり深い悲しみに包まれたりすることもある。そのような体験と重ね合わせて、このページを活用し、生命のかけがえのなさを実感できるようにしていきたい。

◆偶然性

「なぜ自分は生まれてきたのだろう。」そのような思いを、感傷的に抱く生徒もいる。偶然性については、プラス思考で捉えるように助言したい。

2 活用事例

理科(第二分野)

生物についての観察、実験を通して、植物の体のつくりと特徴について学ぶ際に、このページを活用する。植物はどのような仲間をふやすのか。植物はどのような体のつくりをしているのかについて考える。

事例

- ①花のつくりを調べる。
エゾヤマザクラ、ツツジ、チューリップ、マツなどの植物を観察し、その特徴をスケッチする。
- ②花のつくりの違いを知る。
被子植物と裸子植物のつくりの違いを学ぶ。
- ③花のつくりの特徴を深く考える。
裸子植物の胚珠や花粉のうが、なせりん片の裏側についているのかについてグループで討議し、パネル発表を行う。
- ④一〇一ページの「生命を考える 連続性」を読み、植物にも生命を連続させる体の仕組みがあることについて感じたことをまとめ、発表し合う。また、一一九ページの「この人の言葉」のワーズワースの詩を読み、考えたことを記入する。

特別活動(学級活動)

科学技術の発達と生命倫理との関わりから生命の意味を考える際に、このページを活用する。生命の有限性と科学技術との関わりについて深く考え、かけがえのない生命を尊重する態度を育む。

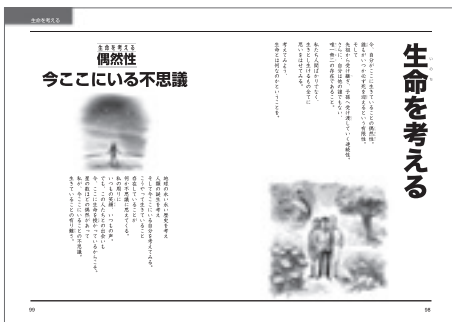


◆有限性

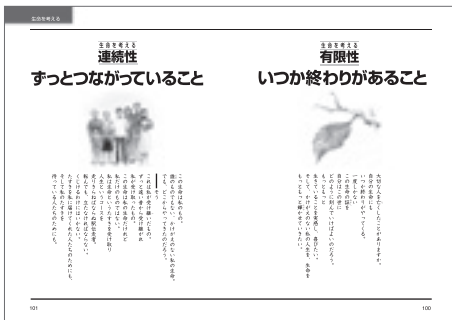
有限性からは、生きていることを大切に引き出せる。一日一日が去って行くように、いつか私たちも去っていく。誰にとってもかけがえのない貴重な一日を精一杯生きていこうとする思いを養いたい。

◆連続性

過去から現在へ、そして未来へと連続と受け継がれていく生命。この連続性については、人間のみならず、あらゆる生命について思いを馳せることができる。



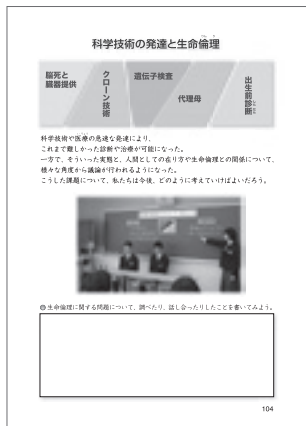
P.98~99



P.100~101

事例

- ①九十八から一〇一ページの「生命を考える 偶然性 連続性」を読み、私たちの命が今の自分だけのものではなく、過去から現在、未来にもつながっていることを考える。
 - ②一〇四ページの「科学技術の発達と生命倫理」に関する新聞記事などの資料を活用し、実態と課題を知る。
 - ③遺伝子治療について意見交流を行い、その是非について考えを深める。
 - ④かけがえのない生命を大切にするために、日々の生活の中で心掛けようと思うことなどを決めて実践に生かすようにする。
- ※生命倫理の課題についての議論では、多様な価値観から意見が対立することが少なくない。両論を併記するなどして、授業の展開には十分留意する必要がある。中学生の学習においては、性急に結論を求めず、これからは一人一人がこのような現代的な課題に向き合っていくための出発点であるとの意識を生徒にもたせることが大切である。



P.104

3 生命を輝かせて

(1) かけがえのない自他の生命を尊重して

P.102~113

3-(1)

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

1-1の内容項目のページの特徴

生命を尊ぶことは、かけがえのない生命を愛しみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れと言える。

そこで、一〇二ページでは生命の神秘性に触れながら、生命が唯一無二のかけがえのないものであることが強調され、一〇三ページでは生命の「誕生」と「終焉」という対極の現実的な出来事から生命について考える構成をとっている。一〇四・一〇五ページでは、科学技術の進歩とともに生じる生命倫理に関わる問題や現代社会の抱える生命に関する課題を投げ掛けている。また、一〇六・一〇七ページでは、先人の生き方や格言から社会的な関わりの中の生命についても考えさせることができるようになっていく。

2 活用のポイント

指導に当たっては、まず自分の生命について、その尊さやかけがえのなさを深く自覚させたい。さらに、人間の生命のみならず生きとし生けるものの生命の尊厳に気付け、生命あるものは互いに支えあって生き、生かされていることへの感謝の念をもたせざるべきかけがえのない。また、自己の生命の尊さやかけがえのなさを深く感じ、今を精一杯生きようとする姿勢につなげたい。さらに、二の視点や四の視点との関連の下で、人間の生命は人間

関係の中で保たれているという側面があるということも考えさせるようにすることが大切である。

3 活用場面例

道徳の時間

一〇六ページの「人物探訪」を読んで、人命を救うことを自らの使命とした緒方洪庵の生き方を考えたり、同じく人命を救う仕事に携わっている人からの話を聞いたりして、生命の尊さを考える。

事例

①一〇三ページの書き込み欄に、これまでの生活を振り返って、生命のかけがえのなさについて感じたことを記入して発表する。

②「人物探訪」を読んで考えたことを話し合う。

③人命を救う仕事に携わっている人をゲストティーチャーとして招き、生命についての話を聞く。

④生命の尊さについて、考えたことをグループで話し合う。

社会科（歴史的分野）

「近世の日本」の中の「新しい学問・思想の動き」の学習の際に「人物探訪」を読むことで、蘭学者や国学者など新しい時代を切り拓いた人物の生き方について知る

ことができる。

理科（第二分野）

内容「(5) 生命の連続性」の単元で「ア 生命の成長と殖え方」と「イ 遺伝の規則性と遺伝子」について学習する際に、本項目のページを学習のきっかけとしたり、一〇一ページの「生命を考える 連続性」を読み、植物にも動物にも生命を連続させる体の仕組みがあることについて、感じたことをまとめて話し合ったりすることができる。

保健体育科（保健分野）

内容「(4) 健康な生活と疾病の予防」の感染症の予防に関して、病原体対策とともに、体力や抵抗力を高め免疫をつけることが感染症予防につながることを学習する。この単元の学習の際に、一〇六ページの「人物探訪」を読むことで、感染症により奪われてきた生命を救うために身を呈して研究に励んだ緒方洪庵の生き方が、予防接種による医療の先駆けとなったことに気付くことができる。

◆人物探訪〈緒方洪庵〉

「人の命を救い、人々の苦しみを和らげる以外に考えることは何もない。」

大阪市中央区北浜のビジネス街に、今も当時の姿を残す「適塾」。創設者の緒方洪庵は優れた蘭学者・医学者であっただけでなく、すばらしい教育者でもあった。明治維新で様々な分野で活躍する多くの偉人が学んだ適塾の入門者は千人にも達した。これほど多くの人に適塾で学びたいと思わせた魅力は何だろうか。

一つは、やはり洪庵の生き様ではないだろうか。自分の名声や利益を顧みず、人のために生きる姿から、かけがえのない生命の大切さについて考えるようにしたい。

◆この人のひと言

「ひとの生命を愛せない者に、自分の生命を愛せるわけがない。」

吉川英治の言葉は、吉川が終戦後の混乱期に執筆した『大岡越前』の中に収められている。この言葉は、後の大岡越前、大岡市十郎が自らの生き方に苦悩し、命を絶とうとしていたときに出会った僧が市十郎に語った言葉として書かれている。

吉川は日本の敗戦後、一時筆を絶っている。『大岡越前』は、そのブランクを乗り越え、作家としての復活をかけた作品である。この言葉はこう続いている。「自分の生命すら粗雑に持ち扱う人間が、何で、ひとからその生命を祝福されようか、愛されようか。」吉川のこの言葉の意味を想像することで、「かけがえのない自他の生命を尊重する」生き方を考えることができる。

1 資料の特性

本資料は、病弱な広瀬淡窓が、医師の倉重くらむね湊の助言によつて生き方を変えたのを知つて、主人公の裕介もこれまでの生き方を変えていこうとするという内容である。病氣のために入院を繰り返して「何のために生きてるのかな、生きていても仕方がないのじゃないか」と苦しむ裕介が、人間の生きる意味について考え、生命を尊重しようとする生き方に変化するところを中心に考えさせたい。キミばあちゃんの言葉の中にある「生きることは一と筋がよし寒椿」の「生き切る椿」が象徴的な意味をもっており、かけがえのない生命を精一杯生きることについて考えさせられる資料である。人間の生命のみならず、身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊厳にも気付かせたい。

2 指導上の留意点

自己の生命の尊厳、尊さを深く考え、生きていることの有り難さに深く思いを寄せることは、自他の生命を尊重して生きることにつながる。中学生の時期は、比較的健康に過ごせる場合が多いためか、自己の生命の大切さを感じている生徒は決して多いとは言えない。また、生命のかけがえのなさに思いが及ばず、生命軽視の軽はずみな言動につながることもある。

裕介は、自分と同じように病弱で、自らの生き方を憂い悩んだ淡窓という人物と、淡窓の実践した「万善簿」をキミばあちゃんから紹介され、生きることにについて考えさせられる。裕介は、淡窓の生き方を知り、自分の考えの甘さに気付かされる。倉重からの淡窓への言葉、「万善簿」、そしてキミばあちゃんと友達とのやりとりなどから命の連続性や有限性、偶然性、そして生き方について考えていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】
生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を精一杯生きようとする態度を育てる。

事例①

裕介の思いを通して、生命の尊さについて考える展開

【主な学習】

- ① 裕介は、なぜ、「何のために生きてるのかな、生きていても仕方がないのじゃないか」と思ったのだろうか。病氣がちで入院を繰り返していて苦しい。
- ・ 親にも心配や迷惑ばかり掛けている。
- ・ 生きる意味が分からない。
- ② 裕介は、広瀬淡窓の生き方や「万善簿」のことを知つて、どのようなことを考えたのだろうか。
- ・ 僕と同じように病弱だったけど、意味のある人生を懸命に生きたんだ。
- ・ 健康であるか病弱であるかは、生き方には関係がないのだ。

③ 裕介は、キミばあちゃんの手をぐっと握り締めて、どのようなことを考えていたのだろうか。

- ・ 生きていても仕方がないなんて考えていたけれど、しっかりと生きる。
- ・ キミばあちゃん、大切なことを教えてくれてありがとう。自分だけが苦しいのではないんだ。前を向いて生きなければ。
- ・ 周りの人々が自分のことを気に掛けていることも忘れない。

※キミばあちゃんへの感謝だけにとどまる発言には、どういうことに感謝しているのかなどを問い、裕介の生きることに對する姿勢に考えが及ぶようにする。

事例②

キミばあちゃんの思いを通して、精一杯生きることについて考える展開

【主な学習】

- ① 裕介の病室に見舞いに行ったときの様子を順平から聞いたキミばあちゃんは、どのようなことを考えただろうか。
- ・ 裕介は元気な同級生たちに自分の悩みを打ち明けることができず苦しんでいるに違いない。
- ・ 裕介が希望をもてるような話を聞かせてやれないだろうか。
- ② キミばあちゃんが広瀬淡窓の「万善簿」を通して、裕介に伝えたかったことはどのようなことだろうか。
- ・ 病氣であっても、人とのつながりを大切にしながら、よいことを積み重ねていこうという前向きな生き方が生きる意欲を生むこと。

- ・ 淡窓も若い頃は、裕介と同じように自分の病氣のことで頭がいっぱいだったが、どのように生きるかを追求していくことで、生きる意味を見いだしたこと。
- ③ キミばあちゃんは、どのような思いから「生きることは一と筋がよし寒椿」の句を「いいねえ。」と言うのだろうか。
- ・ 生きることは、ただ日々を過ごすだけでなく、自分の思いの限り、力一杯、生きることである。それが椿を見ていると思ひ返される。
- ・ 最後まで生きることの大切さが椿の様子と重なって心に伝わってくる。
- ④ 「生きることは」の言葉に続けて、生きることに對しての自分の考えを表現する。



3 生命を輝かせて
 (2) 美しいものへの感動と畏敬の念を

P.114~119

3-(2)

自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。

1 この内容項目のページの特徴

悠久の時間の流れの中で育まれてきた地球の自然。その大自然の前に私たちは息をのむ。本内容項目では、人間の力を超える自然に対し畏敬の念を抱くとともに、自然と共存する将来を考えていくようにする。

一四ページでは、自然と人間との関わりについて考えるきっかけを与えている。一五ページでは自然の恵みと美しさ、一六ページでは、人知の及ばぬ自然の猛威と神秘、そして一七ページでは自然との共存、調和について考えることができるように構成されている。一八ページの大木聖子氏のメッセージにある「私たちのために地球という星があるわけではありません。」という言葉は、この地球上での自然と共存した生き方を考えるきっかけになる。

2 活用のポイント

中学生の時期は感受性も豊かになり、自然や人間の力を超えたものに対して畏怖や神秘を感じるようになる。しかし、自然そのものに親しみ、その美しさに感動する機会に乏しい場合も多く、必ずしも自然のすばらしさを十分に実感しているとは言えない。また、地震や台風など自然の猛威を目の当たりにし、人間の無力さを強く感じている面もある。

指導に当たっては、時に人類に大きな被害をもたらす

の保全について科学的に考察し判断する態度を養う。

事例

- ① 一七ページの「コウノトリ野生復帰プロジェクト」を読み、コウノトリの絶滅を防ぎ、野生復帰を果たすために、動物学、生態学などの様々な科学の分野がいかに長い歳月をかけて関わってきたかを知る。
- ② 保護動物を野生に帰す取組について調べる。
- ③ 調査の結果と自分の考えたことをまとめ、自然環境を保全することの重要性を認識する。

総合的な学習の時間

環境などの横断的・総合的な課題について、自然と人間の関わりを考え、人間が自然に対してできることは何かを探究的に学習する際の導入として活用する。

事例

- ① 一八ページの「メッセージ」を読み、人間と自然との関わりについて考え、話し合う。
- ② 人間が自然に対してできることや自然との調和について様々な資料を基に考え、環境に関する個人の学習テーマを設定する。
- ③ 個人別テーマを基に、探究活動の計画を立て、活動を行う。
- ④ 個人的テーマについて調査したことを整理してまとめる。
- ⑤ 探究活動の結果を踏まえ、調査してまとめたことや、自然との調和について身近な事柄として自分ができることを発表する。

ことのある自然が、一方では我々を豊かにし、癒し、育んでくれる存在であることに気付かせ、人間と自然との調和を考え、共存を目指そうという意欲を引き出し、いくことが大切である。

3 活用場面例

道徳の時間

自然と共存し調和して、よりよく生きていくためにどのようなことが必要かを考える手掛かりとして、本項目のページを活用することができる。

事例

- ① 一五ページを読み、これまでの経験で自然が美しいと感じたことや、自然から癒されると感じたことを振り返る。
- ② 一六ページを読み、自然の不思議さについて感じたことを発表する。
- ③ 読み物資料を読んで話し合う。
- ④ 一七ページの「コウノトリ野生復帰プロジェクト」を読み、今後、自然とどのように関わっていけばよいかを考え、発表し合う。

理科(第二分野)

自然と人間の関わり方について認識を深め、自然環境

◆メッセージへ大木聖子

「私たちのために地球という星があるわけはありません。」

地球に息づく人間を、手のひらに乗るアリに例え、地球や自然に対する人間の傲慢さに警鐘を鳴らす。「地球という星に間借りをして暮らしているのは私たち人類の方」という大木聖子氏の考え方から、自然に対する感謝と謙虚さについて気付きを促すことができる。

この「メッセージ」は、理科の生物に関する単元への導入で活用することができる。地球に暮らす私たちが、自分たちの小ささを知ることができれば、時折起こる地震には謙虚に備えようと思えるのではないかという大木氏の言葉の意味を考えさせるようにしたい。

◆この人の言葉

ワーズワースは一時期、フランス革命に強く惹かれていた。しかし、革命による争いと流血に失望する。故国イングランドに戻った彼は、辺境の風景をこよなく愛する詩人となり、一八〇二年にこの「虹」が作られた。

この詩は、道徳の時間の終末などで活用することができる。この詩を朗読して、前述の背景を紹介し「生きている意味」「子供の頃の思い」から彼が抱く自然への畏敬の念に思いを馳せてみることもできる。

3 生命を輝かせて

(3) 人間の強さや気高さを信じ生きる

P.120~131

3-(3)

人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。

1 この内容項目のページの特徴

人間は決して完全なものではなく欠点や弱点も併せもっている。そして、その良心ゆえに悩み、苦しみ、その呵責に耐えられなくなることもある。

一二〇ページでは、良心の声に耳を傾けることで、よりよく生きようとする意欲を引き出すことについて考えさせる。一二一ページでは、心のどこかに抱くことがある劣等感や妬みなどについて、これまでの葛藤とそれに打ちかった経験を問い、本内容項目の論点に気付けさせるようにしている。一二二ページでは、よりよい自分になるろうと思う気持ちは誰もが胸の内に抱いているものだということを理解させ、自分自身の目指す生き方を問うものである。

また、一二四ページの「人物探訪」では、厳しい状況に置かれながらも、「人は本当はすばらしい心をもっている」と信じ続けるアンネ・フランクの生き方から、「人間としての気高さ」を知ることができる。

2 活用のポイント

「良心の声」「誇りある生き方」「人間の気高さ」という表現を具体的に捉えるのは難しい面もある。そこで、本内容項目のページを活用して、具体的に人間の弱さや醜さを克服する強さや気高さについて考えさせるように

したい。その上で、自らの経験を振り返りつつ、自分自身の誇りある生き方について考え、よりよく生きようと考えて自分がいることに気付き、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことにつなげていきたい。

3 活用場面例

道徳の時間

一二一ページを活用して、人間には弱さや醜さを克服して強く気高く生きようとする心があることについて考える。

事例

- ① 一二一ページの八つの心について、今の自分が気になるものを選んで、どうして気になるのか理由も添えて、グループで話し合う。
- ② 読み物資料「二人の弟子」を読んで話し合う。
- ③ 一二一ページに、自分の心の中の葛藤に打ちかったことを記入する。



P.120~121

■ 社会科（歴史的分野）

歴史的分野の内容「(5) 近代の日本と世界」と関連して、ファシズムと第二次世界大戦におけるドイツの占領政策の学習において、アンネ・フランクの生き方から、戦争や人間としての誇りについて考える。

指導に当たっては、ナチス政権下のドイツにおいてユダヤ人が迫害され、各地の強制収容所に送られたという事実を認識させた上で、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

その上で、アンネの意志の強さは、当時の時代背景からすれば極限とも言える状況下のものであったことを理解させるようにしたい。



P.124

◆ 人物探訪（アンネ・フランク）

「私たちは皆、

幸せになることを目的に生きています。」

【一九四四年七月十五日の「アンネの日記」】

じつさい自分でも不思議なのは、わたしがいまだに理想のすべてを捨て去ってはいないという事実です。だって、どれもあまりに現実ばなれしていて、とうてい実現しそうな理想ですから。

にもかかわらず、わたしはそれを持ちつづけています。なぜならいまでも信じているからです。

—— たとえいやなことばかりでも、人間の本性はやっぱり善なのだということを——



◆ この人のひと言

「良心は魂の声である。」

ルソーについては、社会科の歴史的分野において、ヨーロッパの近代革命の時代の学習と関連させて取り上げることが考えられる。『エミール』で「私たちの魂の奥底には、私たちがそれに基づいて、私たちの行動と他人の行動とを、善あるいは悪と判断する、正義と美徳の生得的原理があるのであって、この原理こそ私は良心という名を与える。」と述べており、ルソーは、どんな人間であつても根底には良心があることを発見し、それゆえどんな人間でも、人間であるがゆえに尊重されなければならないことを訴えている。

1 資料の特性

本資料には、仏門で修行する二人の若者の対照的な生き方が描かれている。一人は、意志の弱さから修行を投げ出し人生の苦しみの中で自分の愚かさに悲嘆する道信であり、もう一人は、厳しい修行に耐え抜いて立派な僧侶に成長したが、舞い戻った旧友を許せない自分の醜さに苦悩する智行である。

二人の姿から、人間の弱さや醜さについて考えることができる。資料では、フキノトウと白百合が比喩的に人間としての強さや気高さとして暗示されている。

生き方の対照的な二人の弟子が、自分の弱さや醜さに向き合い苦しみながらも、それらを克服し誇りある生き方をしようとする姿に本資料のテーマがある。

自分を見つめ、弱さや醜さに向き合い、それを克服し、人間として気高く生きようとする姿勢を通して、生徒たちに人間としての生き方を考える機会を促すことができる。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、人間が内面に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せもっていることに次第に気付くようになる。対照的な生き方をした本資料の二人の弟子が、自己の弱く醜い心に悩む姿を通して、本内容項目

② 道信が上人によって許されたのを見て、智行はどのようなことを考えただろうか。

- ・ 修行を投げ出した人間を許すなんて信じられない。
- ・ 道信が許されるならば、真面目に修行してきた私はやっていられない。上人様は何を考えておられるのだろうか。

③ 白百合を見つめながら涙をこぼさずにいられなかった智行の気持ちは、どのようなものであっただろうか。

- ・ 道信を受け入れることができない自分は、なんて醜い人間なんだろう。
- ・ 寺で修行してきた者以上に苦勞してきたかもしれない道信の姿を見下している自分は、なんて心が狭い人間なんだろう。

④ 「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。」という言葉には、上人のどのような思いが込められているのだろうか。

- ・ 人のことをとやかく言っただけでは、自分のことが見えなくなる。自分自身の心と向き合っこそ、自らの生き方が見えてくるものだ。
- ・ 友を受け入れられない自分の弱さや醜さと向き合いなさい。
- ・ 道信は自分を見つめ、強く生きようと決心してここに戻ってきたのではないか。道信には、道信の生き方がある。自らの生き方を見つめ直す姿勢を大切にせねばならない。

の趣旨を理解させることができる。その上で、内なる良心の声を聞いて弱さや醜さを克服しようとする二人の弟子の姿から、自分自身の内にある誇りある生き方を見ようとする思いに気付かせるようにしたい。

本資料では、「白百合のように気高く生きることの大切さ」に気付いた智行を中心に追うことで、弱さや醜さを克服することは、誇り高い生き方に近付こうとする生き方であることを考えさせることができる。また、苦悶の末に「フキノトウのように強く生きよう」と決心した道信を中心に追うことでも、そのねらいに迫ることができる。

3 展開例

【ねらい】

自分の弱さや醜さに向き合い、それらを克服しようとする強さや気高さに気付くことで、人間として生きることに喜びを見いだそうとする態度を育てる。

事例①

智行のことを中心にして、人間の醜さを克服する気高さについて考える展開

【主な学習】

- ① 智行は道信が帰ってきたとき、どのように思っただろうか。
- ・ 途中で修行を投げ出したのに今さらのこの戻ってきて恥ずかしくないのか。
- ・ 私は、厳しい修行に耐えて現在の立場にあるのだ。お前を受け入れることはできない。上人様もお許しになるはずはない。

事例②

道信のことを中心にして、人間の弱さを克服する強さについて考える展開

【主な学習】

- ① 道信は雪の下のフキノトウを見て何を感じたのだろうか。
- ・ 雪の下で耐えながら生きているフキノトウの強さを見て、自分もこう生きたいと思った。
- ・ フキノトウを生かしているものを感じて、もう一度修行したいと心から思った。自分の弱さと向き合っ、苦しさに目を背けずひたすらに生きてみようと思った。
- ② 智行は道信の行為を許せないと思ったのに、上人はなぜ道信を許したのだろうか。
- ・ 道信の弱さや長年苦しんできたつらさを分かっていたから。
- ・ 道信が自分自身の弱さと向き合っ生きてしようとしていることが分かったから。
- ③ 上人が道信を許したことについて、どう思うか。

